

## メキシコ — 利下げとペソの見通しについて —

### ＜政策金利を予想外に引き下げ＞

9月6日(現地時間)、メキシコ中央銀行は政策金利を予想外に0.25%引き下げ、3.75%としました。現行の金融政策を2008年に始めて以来、政策金利は過去最低となりました。声明文では、

- 4-6月期に経済活動が顕著に減速しており、メキシコ経済の下振れリスクが増大していること。
- インフレ率が予想以上に低下しており、2013年末にかけてのインフレ予想も低い水準であること。

など、従来よりも景気に対して慎重な見方が示されています。

中銀は、インフレリスクが後退している現状を踏まえ、インフレ対策よりも景気下支えを重視し、利下げを行ったものと思われます。

### ＜利下げ発表もペソは上昇＞

5月以降、米国の量的緩和縮小に対する警戒感から新興国通貨が売られ、メキシコペソも対米ドルで下落基調が続いています。

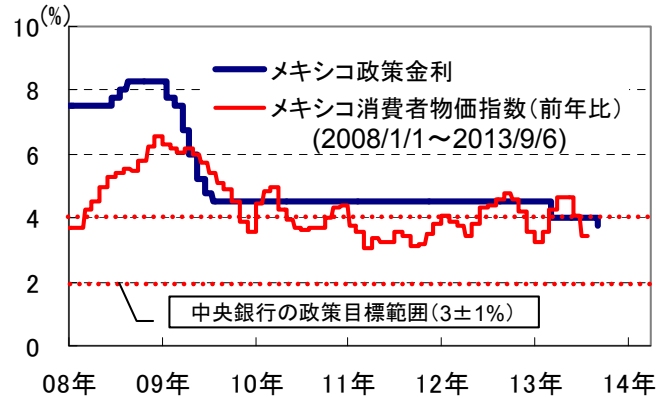
ただし、6日には予想外の利下げが発表されたにもかかわらず、ペソはやや上昇しました。6日の海外終値は、1ペソ=7.53円、1米ドル=13.17ペソとなっています。

### ＜ペソの中長期的な底堅さを予想＞

前回3月の利下げ時には「利下げは一回限り」という姿勢が明確に打ち出されていましたが、今回はそのような見解が示されておらず、今後の利下げの思惑がペソの上値を抑える可能性が考えられます。また、米国の金融政策がペソ相場に引き続き大きく影響を及ぼすと考えられます。

ただし、米国の量的緩和縮小観測は、メキシコ経済と密接な関わりを持つ米国経済の良好さを裏付けるものであり、中長期的には米国の景気拡大がペソの支援材料になると考えられます。8月頃よりエネルギー改革などのペニャニエト政権の改革に進展が見られていることも、ペソにとってポジティブであると思われます。

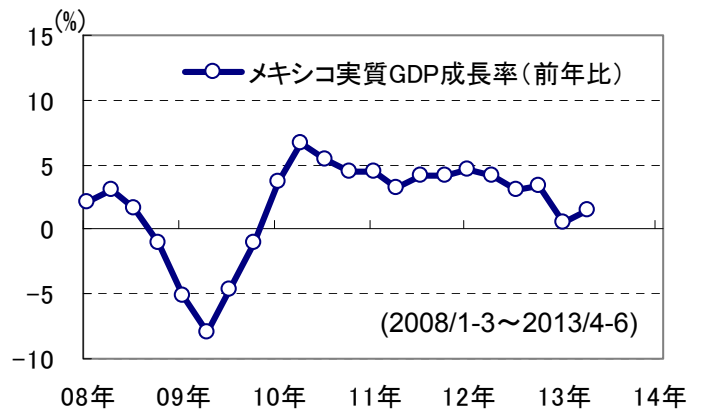
### ＜インフレ指標と政策金利の推移＞



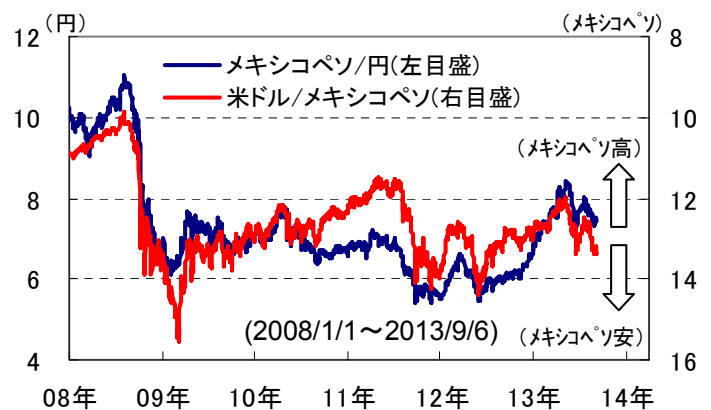
\*政策金利は発表日ベース

\*消費者物価指数(前年比)は2008年1月~2013年7月

### ＜実質GDP成長率の推移＞



### ＜メキシコペソ為替の推移＞



出所: Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

商号等  
加入協会

大和住銀投信投資顧問株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号  
一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会